HPV ワクチン（子宮頸がんワクチン）について

吉野川医療センター産婦人科

Q　子宮頸がんって？

A　子宮頸がんは、女性がかかるがんとして、日本では、乳がん、大腸がん、肺がん、胃がんに次いで、5 番目に多いがんです。子宮がんには、子宮頸がん（子宮の入り口付近から発生するがん）と子宮体がん（子宮の奥の内膜から発生するがん）があります。

1 年間で約 1 万人が、子宮頸がんと診断され、約 2900 人が亡くなられています。

多くの先進国では、子宮頚がん検診の普及と HPV ワクチンの普及で、子宮頸がんで亡くなる人は減少してきています。一方日本では、子宮頸がん検診受診率は約 40%と低迷しており、また、HPV ワクチンの接種も進んでいないことから、子宮頸がんにかかる人も、亡くなる人も増える傾向にあります。

以前は高齢者に多いがんでしたが、最近は若い人がかかる病気になっており、20～30 代で子宮頸がんになる人も増えています。

子宮頸がんは、進行すると、子宮や卵巣を摘出する手術が必要となることもあり、その場合、妊娠・分娩ができなくなってしまいます。

Q　子宮頸がんの原因は？

A　子宮頸がんの大部分は、ヒトパピローマウィルス（HPV）が、子宮頚部に感染することが原因です。

HPV には 200 種類以上の遺伝子型（タイプ）があり、そのうち、性器に感染する HPV は約 30 種類あります。そのうち子宮頸がんの原因となるものがハイリスク HPV と呼ばれています。つまり、このハイリスク HPV の感染を予防することで、子宮頸がんを予防することができます。

一方、尖圭コンジローマなど、良性のイボの原因となる HPV をローリスク HPV と呼ばれています。ハイリスク HPV とローリスク HPV は、感染ルートは同じですが、発生する病気は全く異なっています。

Q　すべての子宮頸がんの原因は HPV 感染ですか？

A　子宮頸がんの 95%以上は HPV が原因であることがわかっていますが、HPV 感染と関係なく子宮頸がんになることもありますが、非常に稀（数%程度）です。

Q　HPV はどのようにして感染しますか？

A　HPV は、体の表面どうしの接触によって感染するウィルスです。温泉やプールでウィルスに触れただけでは、感染しません。性的接触のような濃厚な接触があった場合にのみ HPV に感染します。性的接触がない場合に HPV に感染することは、稀です。

Q　HPV が感染するとどうなりますか？

A　HPV 感染は、無症状です。性行為によって、知らない間に感染が起こります。

検査を行うと、健康な女性からも、ハイリスク HPV が多く検出されます。

いろいろなデータをまとめて推定すると、生涯のうちに HPV に感染したことがある女性は、全女性の約 80%と推定されています。つまり、性交経験のある女性はほぼ全て感染したことがあると言えます。これは男性も同様です。それくらい「ありふれたウィルス」と言えます。

HPV は一度感染すると、増殖したり潜んだりを繰り返しながら、うまく感染し続けます。自然に排除されるとは限りませんので、一度感染したら、潜伏し続ける可能性を考えて、感染しないための予防ワクチンを早い段階で接種することが大切です。

ハイリスク HPV が持続的に陽性となっている状態（持続感染といいます）が続くと、約 10%の女性が、軽度前がん病変を発病します。

Q　HPV に感染してからどれくらいで子宮頸がんになりますか？

A　HPV に感染してから、子宮頸がんに進行するまでの期間は、数年～数十年と考えられています。

HPV 感染がおこるといきなり子宮頸がんになるわけではなく、HPV 感染した女性の一部が「子宮頚部異形成（いけいせい）」という病気を発症します。これは子宮頸がんの前がん病変であり、軽度前がん病変→高度前がん病変→子宮頸がん（浸潤がん）と進行していきます。

Q　HPV ワクチンにはどのような種類がありますか？

A　現在国内で承認されているワクチンは 2 価ワクチンと 4 価ワクチンと 9 価ワクチンの 3 種類があります。いずれも対象年齢の方は公費で接種が可能です。

Q　どのワクチンを接種すればよいですか？

A　2023 年 4 月から 9 価ワクチンが公費で接種できるようになりましたので、9 価ワクチンの接種をお勧めします。9 価のワクチンでは、子宮頸がんの原因の 80～90%を占める 7 種類の HPV と尖圭コンジローマなどの原因となる 2 種類の HPV の感染を予防することができます。

Q　HPV ワクチンの副作用が心配ですが大丈夫でしょうか？

A　副作用について心配される方も多いと思いますが、日本国内における全国疫学調査においてワクチン接種と接種後に報告された多様な症状との因果関係は認められませんでした。また米国で HPV ワクチンは 2021 年に 1 億 3500 万回接種されていますが、重大な副作用は起こっていません。子宮頸がんを予防するために、接種をおすすめしています。

Q　どこで接種できますか？

A　当院では、産婦人科と小児科で接種を行っていますので、お気軽にお問合せください。

参考資料：日本産科婦人科学会 HP より

「子宮頸がんの予防についての正しい理解のために」Part1

子宮頸がんと HPV ワクチンに関する最新の知識　第 3.1 版